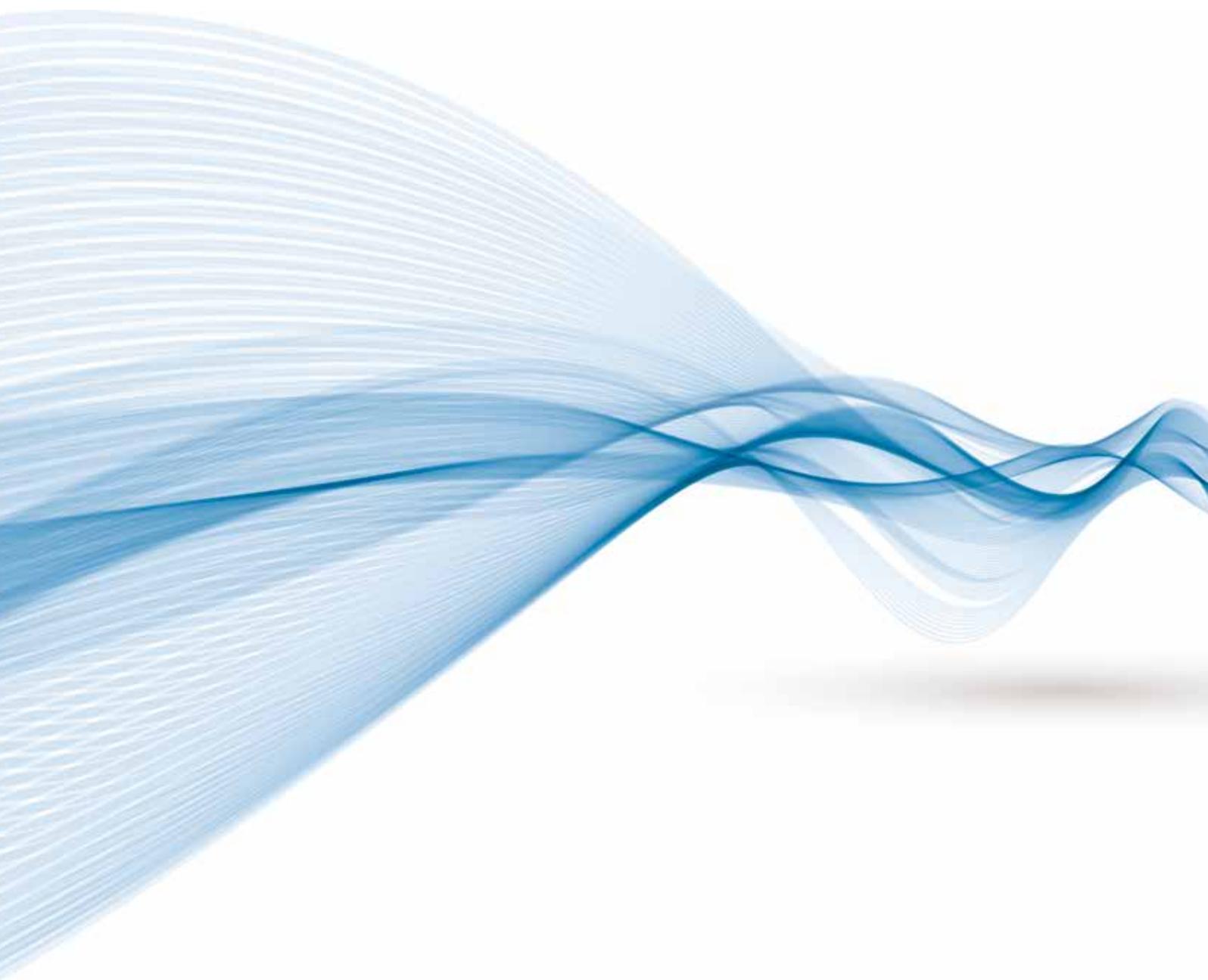


Annual Report 2019



特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会
2019年度年次報告書

代表理事挨拶

本協会は、1993年の発足以来、「国際協力」「環境保護」「地域活性化」「災害救援」「子どもの教育支援」の5分野を柱として、今年28年目を迎えます。これまで行ってきた事業は5,326事業、この事業への参加者数は131,654人となっています。

昨年の学生会員数は、全国80大学の学生3,600人で、会員はそれぞれ32のクラブに分かれ、クラブが存在する地域の活動を中心に自主的に運営を行っています。

昨年度の、本協会主催事業は134事業で4,528人が参加し、そして、それぞれのクラブ主催の事業は743事業で5,491人が参加しました。これを併せると、昨年度の本協会の活動総数は877事業10,019人となり、多くの若者が社会貢献活動に汗を流しました。

そして、昨年は気候変動の影響なのか、台風15号と19号が日本列島に上陸し、これまでにない風雨によって広い地域に甚大な被害をもたらしました。

台風15号では、千葉県内で電信柱が2000本以上倒れ、民家の屋根やゴルフ練習場のボールが民家に倒れる等の強風が吹き荒れ、この影響によって、長期に渡って停電となった地区が多数発生しました。本協会は、千葉県鋸南町・館山市を中心に9月15日から10月20日までの土日祝日を中心に、6回の派遣を行い457名が救援活動を行いました。

台風19号では東日本に記録的な豪雨をもたらし、河川の氾濫が298か所で発生、甚大な被害をもたらしました。この災害では、本協会の本部がある東京都世田谷区を流れる多摩川が氾濫し、延べ142名の学生が救援活動を行い、また、八王子37名、川越3名、高崎19名と各クラブも独自に救援活動を行いました。

また、夏季・春季休暇に、地域活性化活動や森林整備活動を行っている、長野県飯山市及び長野市も、川の氾濫により大きな被害を受け、10月17日～11月10日までの土日祝日に167名が救援活動を行いました。そして、11月30日～12月1日には、ボランティアが圧倒的に不足していた、宮城県丸森町に105名を派遣しました。

この二つの災害救援活動には、多くの卒業生が駆け付け、学生と併せると1,000名を超える人数で救援活動を行いました。

参加した学生・卒業生は、泥だらけになって汗を流しましたが、災害は激甚化しており、微々たる活動しか出来なかったことも事実です。

そして今年初頭、中国武漢で発生した新型コロナウイルスはパンデミック（世界的流行）となり、世界が震撼する事態となりました。本協会も、春のプロジェクト13本（参加者1,000名）を中止としましたが、何もできないという無念さを感じました。

まさに災害・テロ・パンデミックは脅威だと言われていましたが、これによるダメージは計り知れないことを改めて実感しました。

今起こっている、グローバルな問題に対して、2015年9月に国連サミットで採択された「SDGs」（持続可能な開発目標）は、2030年までに持続可能で、よりよい世界を目指す国際目標として、17のゴール・169のターゲットを構成し、地球上の「誰も置き去りにしない（leave no one behind）」ことを誓っています。

この課題解決には、一人ひとりが環境問題への取り組みで語られる「Think Globally, Act Locally」（地球規模で考え、足元から行動せよ）を、実践していく必要があります。

本協会は、「SDGs」をこれまで以上に意識するとともに、この啓発活動も行っていかなければならないと考えています。

皆様には、本協会の事業目的にご理解をいただき、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
国際ボランティア学生協会
代表理事 下村 誠

INDEX

- 3 SDGs との関わり
- 4 特集：コロナ禍におけるボランティアのあり方と可能性
- 10 活動地一覧
- 12 事業報告
- 24 協賛一覧
- 25 メディア掲載
- 26 収支報告
- 27 学生組織図

IVUSAの目指す

社会 (ビジョン) と 使命 (ミッション)

現在、紛争・テロ、気候変動・環境破壊、貧困・経済格差、地域コミュニティの疲弊、多発する災害など国内外で多くの課題があります。

IVUSAは学生というニュートラルな立場を活かし、様々なセクターを繋ぎながら課題解決に取り組むとともに、活動を通じた学びの場を学生に提供しています。

そして、活動を通して多くの国・地域の多様な人たちとの繋がりを作ることで、「共に生きる社会」の実現を目指し、国連が定めた「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals=SDGs)」の達成に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs とは

2015年9月の国連サミット（国連加盟193か国）で採択された2030年までの国際社会共通の目標です。

世界が抱える社会課題を解決し、持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成され「誰も置き去りにしない (leave no one behind)」ことを誓っています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものとして日本も積極的に取り組んでいます。

持続可能な開発とは (Sustainable Development)

「将来の世代の欲求（ニーズ）を満たしつつ、現在の世代の欲求（ニーズ）も満足させるような開発」のことを言います。

この概念は、環境保全と経済成長を互いに反するものではなく共存し得るものとしてとらえ、環境保全を考慮した節度ある開発（経済成長）が重要であるという考えに立っています。

コロナ禍におけるボランティアのあり方について

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大防止のため、身体的接触を伴うボランティア活動がほぼ中止の状態が続いています。「三密」を避け、ソーシャル（フィジカル）ディスタンスをキープすることを前提とした「新しい生活様式」が求められる中で、ボランティア活動のカタチは今後どうなっていくのでしょうか？

■オンラインでできるものは、どんどん代替されていく

政府が「働き方改革」で旗をどれだけ振っても遅々として進まなかったリモートワークが、今回一気に進みました。Zoom や Google Meet、LINE 通話といったツールを使った会議が一般化したことで、ボランティア活動の中に内包されていた「受益者との交流」は継続させることができますし、移動のコストが減った分、参加しやすくなったという声もあります。

もちろん、高齢の方にとってオンラインでのコミュニケーションはハードルが高いのは事実ですし、オンラインでの交流会はオフライン以上にファシリテート（進行）のスキルが必要になります。

■宿泊を伴うワークキャンプや大規模なイベント型の活動は相当の準備とリスク管理が必要

社会的に困難な状態に置かれているハウジングプア（安定した住まいを失っている人々）やDV 被害者などの方々に対するアウトリーチ型の活動が少人数でしかできなくなっています。路上生活者は土木関係の仕事が激減し、炊き出しの支援も減少しており、さらに困難な状態に置かれています。安定したネット環境のない人たちにコロナ禍の影響が最も出ていると言えるでしょう。

一方、オンラインでは代替できない「時間と空間を共有する」ということを前提としたプログラムを提供している団体も大きなダメージを受けています。夏に予定されていたプログラムはほぼ中止のところが多く、実施するとして

も相当の感染拡大防止に対する準備と、それでも感染者が出た場合にどう対処するのかという「覚悟」が必要になってきます。

■「活動がない」ということが当たり前になってしまうのが最大の問題

そこまでのリスクを取ってオフラインの活動をするのかとなると、二の足を踏む団体も多いでしょう。事実、切迫したニーズを抱えた人たちに対する支援でもない活動は、「不要・不急」とみなされがちです。

しかし、活動がない状態が数カ月、そして一年と続いていけば、それが「ふつう」（ニュー・ノーマル）になっていきます。旅行に行くことも、飲食店で友だちとおしゃべりすることも、新しい服を買うことも、「なくても別に困りはしないし、いいじゃないか」と醒めてしまえば、その産業が、ひいては文化の存続が危機に陥るでしょう。

感染拡大防止への対策をしっかりとした上で、オフラインの活動を再開していく「リスクテイク＝チャレンジ」がそろそろ必要なのではないのでしょうか。



5月27日、シチズンシップ共育企画代表で龍谷大学社会学部講師の川中大輔さんをゲストにお迎えし、「コロナ禍の中で私たちができることは何か」を考えるオンラインワークショップを行いました。

川中さんから、海外や国内のいくつかの事例を紹介いただいた後、「コロナ時代のボランティア活動を考える」ためのヒントとなる視点を教えていただきながら、グループワークを行いました。

また、この会の中で紹介されたコロナ時代と向き合って生きていく上で重要なポイントについていくつかご紹介します。

●発想の転換・・・「自分にできること」から活動を考える

平時には、どんな活動を行うかを考える時、「そこにどんなニーズがあるのか?」「それに対して私たちは何ができるのか?」という視点で考えることが多いと思います。

しかし、コロナ禍では、「困っていることが何か?」「必要とされていることは何か?」というニーズの視点から考えると、あまりにもたくさんのニーズが出てきます。もちろん、そのニーズに対して、「私たちに何ができるのか?」を考えていくことも一つの道筋です。

一方で、それだけたくさんのニーズがあるならば、自分の趣味や特技など「自分ができること」を活かして、それを活動に展開できる可能性も高く、そこから「何をするのか?」を考えていくこともできます。ニーズから考えることは大切ですが、活動参加へのハードルが高くなってしまう場合には「できること」から考えてもいいでしょう。



●非常事態宣言が解除された今だからこそ、「何に困っていたのか?」をヒアリングし、今から備えておく

コロナの状況下では、老若男女問わず多くの人たちが何かしらの困った経験をしたかと思います。緊急事態宣言が解除され、制限緩和されましたが、再び緊急事態宣言が発令された場合、あの時の“困った”が再燃する可能性が考えられます。そこで、制限緩和されている期間中に「コロナの状況下で周りの人たちは何に困っていたのか?」をヒアリングし、事実を確認することができます。多くの人がこの辛い大変な経験をしたことがあることというのは、また同じことが起こった時に向けては、大きなアドバンテージになります。

「あの時、何に困りましたか?」「じゃあ、また起こった時は、こういったことをやって対応しましょう!!」という、新型コロナの第2波に備えた対策を、周りの人たちと協力して準備することも、今の私たちにできることです。

●地元の人が地域の良さを再発見する観光スタイルに

これまでの観光のスタイルは“出来るだけ遠くの人に来てもらう”という発想で考えられていましたが、当面の期間は国際的にも観光による人々の往来が大幅になくなる可能性が高いと考えられます。そのため、地元の住民たちが地域の良さや魅力を再発見する観光にシフトしていく可能性が考えられますが、“地元の人が楽しむ観光プランを作る”ということはあまりメジャーではありません。しかし、それは裏を返せば、“地元の人が楽しむ観光プランを作るのが得意”という人が少ないということなので、大学生でも同じレベルから議論に参加できる可能性が高いです。

コロナ禍では様々な制限がありますが、例えば自分が住んでいる地域を歩き回り、今まで知らなかった地域の楽しみ方を体験し、それらを発信・共有していくことは一人でもできる取り組みです。こういった取り組みも「地域のために今、自分にできること」の一つです。

●ワークキャンプ系や地域活動支援は学生個々の居住地を軸に

長距離移動により、これまで行ったことや体験したことのない場所で、様々な経験をすることは、時間のある大学生にとってはとても魅力的です。しかし、コロナ禍では移動がリスクになる場合が多いため、近距離移動で活動可能な場所から、活動を始めていく必要があります。大学がキャンパスを再開し難い理由は、学生たちが広域で移動し集まってくるためです。それであれば、移動するという考え方から、居住地ごとでグループを再編して地域活動を行うということも一つの方法でしょう。

オンライン座談会

～コロナ禍における学生ボランティアのあり方～

7月20日（月）、「コロナ禍におけるボランティアの在り方とは？」をテーマに、様々な機関で学生ボランティアをコーディネートする4人でのオンライン座談会が行われました。

前半は、コロナ禍でのそれぞれの状況、後半はコロナ禍での学生ボランティアの新たな形について、ざっくばらんに話し合いました。

▼参加者

同志社大学ボランティア支援室 高橋 あゆみさん
特定非営利活動法人 NICE（日本国際ワークキャンプセンター）
太宰 菜里さん
千代田区社会福祉協議会ちよだボランティアセンター 宮本 萬梨さん
特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会（IVUSA） 湯田 舞

▼参加者紹介・コロナ禍での状況

同志社大学ボランティア支援室 高橋あゆみさん



大学時代に、偶然友だちに誘われてボランティア参加し、そこから興味を持って、大学のボランティアセンターで学生スタッフとして活動をしていました。その時の「ボランティアの立場でも一人ひとりが声をあげていける！」という原体験から、大学生にも、「ボランティアを1つのきっかけとして、社会と関わることができる」ということを伝えていきたいと、中間支援の仕事に就きました。中間支援のNPO、他大学ボランティアセンターを経て、今に至ります。

大学のボランティアセンターとは

学生と地域を繋ぐための大学内の組織です。仕事内容は、「ボランティアをやりたい！」という学生へのボランティアを紹介、きっかけづくりとしてボランティアプログラムの提供など。学生スタッフとも協働し、大学内でボランティアを広める活動をしています。

■コロナ禍での状況

大学は、卒業式や入学式などの行事もなく、授業は原則ネット配信となり、学生と会えない日々がずっと続いています。課外活動も原則オンラインのみで、対面でのボランティア活動の再開目処が立たず焦りもあるものの、オンラインミーティングでの学生とのやりとりなどを通し、対面ではなくできるボランティアの形を模索し続けている状態です。

■コロナ禍ならではの、取り組み

同志社大学今出川キャンパスのある京都市上京区ではまちづくりが盛んなのですが、その中で出たアイデアの一つとして、「上京区の独居老人の方と学生との手紙とノート交換」企画が、盛り上がっています。今、2往復目を終えて、3往復目に入ろうとしているところです。10名程度で規模は小さいものの、コロナ禍で出来ることの新たな可能性が見える活動だと思っています。また、子ども関連の活動先に、工作キットを送るという活動も、現在進めているところです。

特定非営利活動法人 NICE（日本国際ワークキャンプセンター）
太宰 菜里さん



国際ボランティアに興味を持ったきっかけは、『世界がもし100人の村だったら』という絵本でした。19歳の時、NICEのワークキャンプでマレーシアへ訪れ、初の海外ボランティアでの体験に衝撃を受け、「地域活動やボランティア活動に踏み込んでみたい」という想いを持つも、大学卒業後は一旦、地元の銀行に就職しました。そこでは、広報CSR室で、社員向けボランティア活動のサポートを行っていました。退職後、1年間世界で旅やボランティアをするNICEの海外プログラムに参加した後、NICEに就職しました。担当は、「グループワークキャンプ」で、企業の社員や大学生を対象とした国内外のボランティア活動の企画・開催などを行っています。

NICEとは？

“ワークキャンプ”と呼ばれる、国内外への宿泊型のボランティア活動の主催・企画を行なっている団体です。毎年約1,000名の参加者が、NICEを通じて国内外のボランティアへ参加しています。

■コロナ禍での状況

新しい生活様式の基準を守った状態(定員数を下げるなど含め)で出来る活動はやっていこうという流れですが、国内でのワークキャンプ数は例年の3分の1に減っており、キャンプの参加者の充足率は40%程度で、そもそも実施できるかという不安がある状態です。もちろん受け入れ地域側に、東京から人が来るのは不安…という人が一人でもいたら実施が出来ないので、組織の中でも、現状や今後の方針について、日々話し合っている状況です。

■コロナ禍ならではの、取り組み

対面でのボランティアは難しい反面、オンラインでの活動が盛んになっています。コロナ禍で地域に人がいけないことで浮き彫りになった地域の社会課題についての話し合いや、地域の様子のオンラインでの配信、実際に地域と共にクラウドファンディングを行うなど、対面でなくてもできるアクションも生まれていて面白さは感じています。

千代田区社会福祉協議会ちよだボランティアセンター
宮本 萬梨さん



別の中間支援組織にて、生活福祉資金の部署に2年間勤務後、千代田区社協への転職し、ボランティアセンターに配属となったので、初めは、「千代田区でのボランティアセンターの役割とは？」「私がボランティアセンター職員として何が出来るか？」と不安を抱えながら、スタートしました。そこからIVUSAを含む地域の学生たちと出会い、学生・地域との関わり、ボランティアコーディネートの経験を積みました。コーディネートの経験から、制度だけでは解決できない地域の困りごとを、地域の学生と連携して、課題を解決することがボランティアセンターの役割だと感じ、日々活動をしています。

社会福祉協議会とは？(全国社会福祉協議会 HP より)

<https://www.shakyo.or.jp/recruit/about/index.html>

■コロナ禍での状況

学生たちと春休みに企画をしていたボランティア活動が新型コロナウイルスの影響で中止になってしまい、その後学生とも会えないまま、今に至っています。大学生と遊んで欲しい子どもや、施設や自宅でお話の相手をして欲しいという高齢者のニーズがある一方、学生が施設や自宅に出向くことに対して、双方の安全が担保できるかが難しいですね。日々悩みながら模索しています。

オンラインの可能性を探りながらも、生活で困っている人たちがオンラインにアクセスできないことも多く、オフラインでの繋がりを求める声もある中で、どうしていくかが課題だと感じています。

■コロナ禍ならではの、取り組み

ちよだボランティアセンターで、新型コロナウイルスで困っている地域の方を助けるために「助け合い事業助成金」をはじめました。こんな大変な状況だからこそ、地域を助けたいと、IVUSA市ヶ谷クラブが助成金を申し込んでくれました。気仙沼での簡易防護服を作る「防護服支援プロジェクト」を参考に、千代田区内の医療施設、福祉施設などに簡易防護服を届ける活動をしています。その他、いくつかの団体による、子どもが楽しめる動画配信や、マスクやフェイスシールドを作って福祉・医療施設などに送る活動も行われています。

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 湯田 舞



初めてのボランティアは、大学2年時に『地球の歩き方』のスタディツアーで訪れたカンボジアでした。その経験がきっかけで、大学のボランティアセンター提供科目にて「平和学」を学びました。「社会問題について考えたり、行動したりする人を増やしたい」という想いから社会科教員免許を取得したんですが、まずは自身が社会を知りたいと新卒で商社へ入社しました。退職後、Up with People というアメリカのNPOの「世界各国の100人の若者と半年間、世界を回りながらボランティアやミュージカルを行う」プログラムに参加していました。帰国後、縁があってIVUSAにて非常勤職員をしています。「社会問題を自分ごととして捉える場づくり」をライフワークとし、高校での非常勤講師など、教育系のお仕事もしています。

■コロナ禍での状況

毎年行なっている、夏の国内のボランティアプロジェクトは全て中止となっており、新規の会員獲得が困難な状況です。収益という面で打撃がある以上に、学生の活動の場が不足することによって、毎年プロジェクトによって継承されていた学生間でのノウハウやスキルの継承の機会がなくなってしまうことが懸念されています。対面での活動再開の可能性が読めない中で、対面主軸・現場中心で活動をどのように変化させていくのかの模索が続いている状況です。

■コロナ禍ならではの、の取り組み

研修や交流の場をオンラインで開催したり、減災についての情報をオンラインで配信したりする動きが活発化しています。活動としては、児童養護施設向けのオンラインでの学習支援が新たに始まりました。また、毎年行なっている活動報告会も、初のオンライン配信という試みが行われ、新たな発信の可能性は広がっているように思います。

▼コロナ禍で考える、ボランティアの新しいカタチ

コロナ禍で生まれる、新しい取り組みや動きはどんなものがありますか？

太宰：対面での活動が難しくなり、改めて、「ボランティアってなんだっけ？」と考える機会になっています。ワークキャンプと一緒に企画している地域の方を招いたオンラインイベントなどを開催していますが、「それって、ボランティア活動なんだっけ？」と改めて考えたりもしていますね。

高橋：オンラインでないのですが、学生たちが、有志で、飲食店を応援するプロジェクトを始めているのを知りました。発起人の学生の、アルバイト先の飲食店が潰れたのがきっかけらしく。インスタグラムを使いながら、インスタ映える写真を投稿することで飲食店を応援するという形です。「コロナ禍でも行動を起こす学生もいるんだ！」と気づく機会になりました。

これまで想定されていたボランティア活動とは少し違いますが、「社会に対して自分自身が出来ること」という切り口での、今の状況にあった新しい行動の形だなと感じています。

コロナ禍で特に懸念していることは？

太宰：本来、「自発的な」活動であるボランティアなので、参加者のモチベーションは、とても懸念しています…。4月頃は、「そのうち収まる」という期待がありましたが、後期も活動できるか雲行きが怪しくなる中で、どのように参加者をモチベートしていくのかは悩みどころですね。対面、寝食を共にすることあることが大切なワークキャンプ自体は変えたくないけれど、環境に合わせて変えていかなければならない部分もあると感じています。

オフラインでしか出来ないこと / オンラインでしか出来ないこととは？

高橋：ボランティア支援室としては、「地域を知る」「地域の方と一緒に取り組む」ということを大事にしています。「地域の方と出会う」や「課題を知る」ということはオンラインでできるかもしれないと思いつつ、行ってみないとわからない空気感や土地感、偶然に出会う会話とかもあるんじゃないでしょうか。今の状況で、オフラインでしか得られない付加価値がなくなってしまうことは気になっています。

宮本：このコロナの状況になって、初めてオフラインの良さに気づいた感覚があります。学生が直接地域に出向いて得られるものの良さがこんなにあったんだ！と。例えば、おじいちゃんやおばあちゃんが学生にハンドマッサージしてもらって、涙流しながら喜んでもらって、「やってよかった」という感動が得られるのはオフラインならではの良さだったと感じています。

湯田：活動とは違うんですけど、オンラインメインの生活になって、五感のうち、視覚と聴覚しか使わなくなって、感覚を共有出来ないってこんなに違うのか！と衝撃を受けてますね。先日、学生と話していて、「それなら同じ料理を同じ時間に作って一緒に食べたら、味覚や触覚も共有出来るのでは！？」という話になったんですけど（笑）、五感で感じたことを共有できることの大きさは感じますね。逆に言うと、五感の共有できる工夫ができると、オンラインにも希望があるのかも、と思います。

あとは、オンラインのみの環境だからこそ、これまでやったことなかったことをやるきっかけになったり、どこにいても研修がオンラインで受けられたりして、機会が均等になったのは良いことです。

宮本：講座とか、何か一緒に学習することは、オンラインの方が良いと感じています。先日、千代田ボランティアセンターで災害の講座を開催しました。なんと、100人近い方が参加してくれました！

講座など、困っている人の発信などの、知識を得る場を作るのは、オンラインがやりやすいと感じています。

太宰：最近、人間はエモーショナルな部分に感動するんだと思っています。AIと人間って、オンラインとオフラインの関係に近いと思うんですけど、五感を使って価値を共有するというのは、人間でしか出来ないからオフラインの良さで、事務的なAI的な要素はオンラインとなっていくのかなと考えています。人間ならではの良さをどう残していけるんでしょう。

今後に向けてやっていきたいことは？

高橋：冒頭でNICEさんのお話にも出ましたが、オフラインでの活動を再開していくにあたり、ガイドラインを、ボランティア支援室として作っていかないといけないと考えています。

宮本：下半期活動再開に向けて、新型コロナウイルス感染者増加により、少し雲行きが怪しくなってきた中で、まだ構想段階ですが、オンライン化についていけない高齢者の方向けに、企業や学生ボランティアさんが教えてくれる、みたいな“ゆるいオンライ

ン講習会”ができないかと思っています。

湯田：オンライン化によって、イベントに離れた場所からでもゲストが呼べるようになったので、これを機に海外とも積極的に繋がった学びの場を創っていききたいですね。

太宰：自分の身近なところでボランティアする機会をもっと作れたら良いかなと思っています。これまでは、東京から地域に出向くという形がスタンダードでしたが、これからは、例えば職員が地域に住んで、そこで地域の人と繋がりながらボランティアをするなど、ボランティアの「地産地消」のような形が増えていくのは魅力的なのではないかと思っています。

最後に、今後に向けて、意気込みや想いをお願いします！

宮本：コロナ禍だからこそ、地域の、生活における困りごとが浮き彫りになってきた部分もあるので、そこに対して、どう学生ボランティアの強みを活かして行けるかをこれまでと違った形も含め模索してゆくことが求められる正念場だと思っています。どのようにオフラインの再開を行うか模索を続けつつ、学生との繋がりを切らさずにやっていきたいです！

太宰：普段、お話す機会がない方々とお話できたので、今後繋がるアイデアやヒントが見つかりました！最近、オンライン化が進んで、雑談があまりなくなったなあと感じていて、無駄かもしれないけれど、あったらあったでチャンスが広がるものの存在があったんですね。オフラインだからこそ得られた大事なものは残しつつ、オンラインで繋がれるところは繋がって行って、機会・チャンスを作っていきたいと思います！

高橋：先日、関西のボランティアセンター関係者で集まった際に、「今、繋がりが見えにくい中で、それでもつなぐということはこれまでと変わらずボランティアコーディネーターの仕事」だという話が出ました。どう繋がりを作っていくのか？この状況を、前向きに捉えてやっていくしかないなと思っています。個人的には、コロナ禍で政府が出す方針に私たちの生活が大きく影響されることもあり、最近、学生の社会に対する関心が増えている気がして

います。

ボランティア支援室では、「市民性を育む」ことを大事にしているので、社会に声を上げることの意味や機会が増えるのは大切なことだと思っています。オフライン、オンラインそれぞれのバランスを大事に、よさを生かしながら、コロナとお付き合いしてゆくことが必要になりますね。

湯田：コロナ禍で、人と会えない分、自分自身や生活に向き合う時間は、これまでより増えた感覚があります。社会の問題解決や、社会をより良くするという文脈で、自分ができること、生活者としてできることを、見つめ直す良い機会として捉えたいと思っています。ボランティア活動も、コロナがなければ、「活動があるから行く」という形から、「自分は何がしたいか？できるか？」を考える時間ができているのではないかと思うので、学生たちのその想いに寄り添っていききたいです。

ボランティアコーディネーターという共通のお仕事をしている中でも、なかなか普段は接することのない他組織の方々とお話を通じ、様々なアイデアや、With コロナでのボランティア活動の新たなカタチに向けたヒントが見える、あたたかい会となりました。情報や知恵、アイデアの共有が生まれることも、コロナ禍だからこそかもしれません。

ご参加いただいた皆様、本当に有難うございました！



活動

IVUSA では、「国際協力」「環境保護」「地域活性化」
「災害救援」「子どもの教育支援」の5つの活動分野を軸に活動しています



海外編

春と夏の長期休暇を利用し、国内だけでなく、国外でも活動しています

紹介

- 環境保護
- 地域活性化
- 国際協力
- 災害救援
- 子どもの教育支援
- その他



国内編

2019年度の活動場所は、国内だけで24カ所に及びました
 この他にも各クラブが地域のニーズに合わせたボランティア活動を行っています

事業一覧

国際協力

■すみだストリートジャズフェスティバル



- 活動期間 2019年8月17日～18日
- 活動場所 東京都墨田区錦糸公園
- 参加人数 84名
- 活動内容 IVUSA ブースの出展・フェスティバルの運営補助
- 成果・課題等

カンボジアの活動の広報・寄付の獲得

- 協力・協賛等

すみだストリートジャズフェスティバル実行委員会、日本イベント協会、株式会社 POOL

■グローバルフェスタ JAPAN2019



- 活動期間 9月28日～29日
- 活動場所 お台場センターブロード
- 参加人数 16名
- 活動内容 IVUSA・株式会社 POOL コラボブースの運営
- 成果・課題等

初出席

- 協力・協賛等

グローバルフェスタ JAPAN2019 実行委員会、株式会社 POOL

■フィリピン減災・環境保全スタディツアー



- 活動期間 2019年8月29日～9月3日
 - 活動人数 8名
 - 活動内容 今後の活動の方向性の検討と、減災学習プログラムのブラッシュアップ
 - 成果・課題等
- 新たなカウンターパートとしてのデ・ラ・サール大学とのパートナーシップの構築
- 協力・協賛等
- Bridges of Inter-cultural Harmony Inc.、ラオー市バランガイ・ピナグバヤナンの協同組合 KADRE

■カンボジア小学校建設活動



- 活動期間 2020年2月27日～3月9日
 - 活動場所 カンボジア王国コンポンチャム州
 - 参加人数 49名
 - 活動内容 チョンコ村での小学校建設
 - 成果・課題等
- チョンコ小学校のレンガ組完成、来年の完成までの資金調達
- 協力・協賛等
- KHJ Construction Co.ltd、モンスターエナジージャパン合同会社、株式会社トーヨー、株式会社モルテン、福德産業株式会社、梅吉食品株式会社、公益財団法人日本バレーボール協会、ダイヤ製菓株式会社、大和ライフネクスト株式会社、セツカートン株式会社、静岡県西伊豆町のみなさま



■中国緑化活動



- 活動期間 2019年9月3日～12日
- 活動場所 中華人民共和国内モンゴル自治区ダラト旗
- 参加人数 18名
- 活動内容
 - ・ポプラの植樹
 - ・保育
 - ・剪定作業
 - ・中国人学生との交流会
- 成果・課題等
 - ・中国国際青年人材交流中心の環境ワークキャンプチームとの交流とシンポジウムを行い、日本、中国、韓国、インドネシア、エジプト、カザフスタン、ベトナム、ポーランド、マレーシア、ミャンマー、ロシアの学生による自国のゴミの処理・分別をテーマにディスカッションや交流を行った
- 協力・協賛等
 - 日中緑化交流基金、中国国際人材交流中心、ダラト旗青年連合会、北京語言大学



●●●●●環境保護●●●●●

■琵琶湖外来水生植物除去大作戦 2019



- 活動期間 2019年9月6日～8日
- 活動場所 滋賀県高島市
- 参加人数 215名
- 活動内容
 - ・琵琶湖北部の高島市に繁殖しているオオバナミズキンバイの除去・運搬
 - ・一般参加者と一緒に除去活動することによるオオバナミズキンバイの啓発活動
- 成果・課題等
 - 【成果】
 - ・滋賀県高島市新旭町深溝にあるヨシ造成地内に繁殖するオオバナミズキンバイの総除去量 除去量 7.2トン 除去面積 950㎡
 - ・再繁殖の予防のためオオバナミズキンバイの断片を出来るだけ丁寧に除去し、専門家の方からも丁寧な作業に対して高い評価を受けた。
 - 【課題】
 - ・オオバナミズキンバイの除去活動において最も重要なことは早期発見・早期除去。そのため、県内の多様な主体にこの問題を認知してもらう必要があるが、未だにオオバナミズキンバイの問題に対する認知が広まっていないことが大きな課題。
- 協力・協賛等
 - 【協力】
 - 独立行政法人 水資源機構（琵琶湖開発総合管理所・琵琶湖開発総合管理所湖西管理所）、環境省 近畿地方環境事務所、湖西漁業協同組合、有限会社万木自動車工業、STAGEX 高島
 - 【協賛】
 - 西菱電機株式会社、福徳産業株式会社、こだま食品株式会社、モンスターエナジージャパン合同会社、HIKO'S DESIGN、株式会社パールライズ滋賀

■オオバナミズキンバイ除去活動・啓発活動



- ・2019年8月11日（守山市芦刈園オオバナミズキンバイ除去活動） 参加者 46名
- ・2019年8月20日（瀬田川オオバナミズキンバイ学習会及び除去活動） 参加者 46名
- ・2019年8月25日（京都府鴨川オオバナミズキンバイ除去活動） 参加者 120名
- ・2019年8月31日（第9回マザーレイクフォーラムびわこコミ会議 2019） 参加者 2名
- ・2019年10月5日～6日（第12回いい川、いい川づくりワークショップ in 滋賀、京都） 参加者 8名
- ・2019年12月14日（守山市芦刈園オオバナミズキンバイ除去活動） 参加者 85名
- ・2020年2月2日（第19回草津市こども環境会議） 参加者 5名
- ・2020年2月8日（第32回地球研地域連携セミナー） 参加者 7名
- ・2020年2月27日（守山市びわこ地球市民の森オオバナミズキンバイ除去活動） 参加者 38名

■こどもの国竹林整備活動



- 活動期間 2019年5月26日、6月16日、8月25日、9月7日～8日、12月15日
- 活動場所 神奈川県横浜市
- 参加人数 延べ80人
- 活動内容 こどもの国園内の竹林整備
- 成果・課題等
園内の竹林を整備することで、環境改善に貢献することができた
- 協力・協賛等
社会福祉法人こどもの国協会

■千葉県印旛沼クリーン大作戦



- 活動期間 2019年6月8日、8月8日～10日、9月6日
- 活動場所 千葉県八千代市・印西市
- 参加人数 延べ144名
- 活動内容 神崎川・桑納川の外来水生植物ナガエツルノゲイトウの駆除
- 成果・課題等
9.05トンのナガエツルノゲイトウの駆除
- 協力・協賛等
千葉県、印旛沼流域水循環健全化会議、株式会社水圏科学コンサルタント、独立行政法人水資源機構千葉用水総合管理所、八千代市、印西市、パシフィックコンサルタンツ株式会社、八千代エンジニアリング株式会社、株式会社荏原電産、鹿島川土地改良区印旛土木事務所、特定非営利活動法人環境パートナーシップちば、株式会社電業社機械製作所、株式会社中央設備、シノプフーズ株式会社、神崎川を守るしるい八幡の会、東邦大学、千葉大学、中央学院大学、株式会社オーシャンライフ、株式会社シバタ、弘進ゴム株式会社、株式会社ダンロップホームプロダクツ、モンスターエナジージャパン合同会社、株式会社シバタ



■新潟県佐渡市日本海沿岸清掃活動



- 活動期間 2019年9月11日～14日
- 活動場所 新潟県佐渡市
- 参加人数 85名
- 活動内容 大野亀・二つ亀周辺の海岸清掃
- 成果・課題等
6.5トンの海洋ゴミの回収、5名の新潟大学の学生参加
- 協力・協賛等
佐渡市、佐渡を美しくする会、佐渡海防地区観光協会、新潟県離島振興協議会、新潟大学『ボランち。』、SADO ニツ亀ビューホテル、モンスターエナジージャパン合同会社、タイヤ製菓株式会社、株式会社ナリスアップコスメティックス、こだま食品株式会社、福徳産業株式会社

■京都府阿蘇海環境づくり活動



- 活動期間 4月27日～28日、7月14日、8月23日～26日
- 活動場所 京都府宮津市・与謝野町・京丹後市
- 参加人数 延べ115名
- 活動内容
・富栄養化により異常繁殖し堆積しているカキ殻の回収
・回収したカキ殻を農地に散布するなどの資源活用
・地域の様々な取り組みを学ぶフィールドワーク
・地域の子ども向け環境学習会・地域の行事への参加や、環境意識向上に向けた啓発活動
・地元住民などとの交流会
- 成果・課題等
【成果】
・カキ殻 17.6トンの回収と資源活用
・住民など延べ120名の参加・カキ殻の資源活用の賛同していただける新たなネットワークを構築
【課題】
・食用牡蠣としての活用・地域内での環境保護に取り組むネットワークの構築
- 協力・協賛等
阿蘇海環境づくり協働会議、有限会社あつぷるふぁーむ、天橋立総合事業株式会社、天橋立温泉「智恵の湯」、天橋立ワイン株式会社、天橋立文珠繁栄会、数本三男、有限会社京丹後ふるさと農園、京都府漁業協同組合宮津市支所、京都府丹後広域振興局、有限会社小山住建、ショーワグローブ株式会社、宗教法人智恩寺、平木志乃様、松崎健児様、株式会社まつなみ、宮津市、宮津天橋立漁師町とまと一、モンスターエナジージャパン合同会社、与謝野町、与謝野シルクプロジェクト推進協議会、与謝野町婦人会、吉津小学校、吉野茶屋、合同会社和束茶油屋農場

■ 沖縄県石垣島海洋漂着ゴミ水際掃討大作戦



- 活動期間 2020年2月12日～17日
- 活動場所 沖縄県石垣市
- 参加人数 42名
- 活動内容 海洋漂着ゴミの回収
- 成果・課題等
 - ・回収漂着ゴミ 698袋、粗大ごみ 404袋、延べ 1102袋
- 協力・協賛等
 - 海 love ネットワーク、石垣ビーチクリーンクラブ、沖縄県立八重山農林高等学校、沖縄県石垣市

■ 長崎県対馬市海岸清掃活動



- 活動期間 2019年8月10日～12日
- 活動場所 長崎県対馬市
- 参加人数 24名
- 活動内容
 - ・海岸清掃活動（樟崎海岸、赤島）
 - ・シーカヤック体験（美津島町箕形）
 - ・エクスカーショ（対馬野生生物保護センター、万松院、和多都美神社、鳥帽子展望台）
 - ・ワークショップ
- 成果・課題等
 - 海ゴミ問題の深刻さとともに、対馬の様々な魅力を実感することができた
- 協力・協賛等
 - 一般社団法人対馬 CAPPA、NPO 法人環境カウンセリング協会長崎、対馬市、長崎県

■ 山形県日本海沿岸清掃活動



- 活動期間 2019年8月28日～9月1日
- 活動場所 山形県酒田市、遊佐町
- 参加人数 128名
- 活動内容 海洋漂着ゴミの回収、海洋漂着ゴミ学習のセミナー
- 成果・課題等
 - ・回収漂着ゴミ 飛島：(トンパック換算) 可燃 27、不燃 2、漁網・粗大 8
 - ・遊佐町 (20リットル袋換算) 可燃 194、不燃 32、漁網 220、粗大 220
- 協力・協賛等
 - 特定非営利活動法人パートナーシップオフィス、合同会社飛島、山形県

■ 長野県北信地域森林整備活動



- 活動期間 2019年8月3日～6日
- 活動場所 長野県信濃町
- 参加人数 57名
- 活動内容 県有林の整備、利活用の子ども向けイベントの実施、治山整備
- 成果・課題等
 - 18名の親子のイベント参加
- 協力・協賛等
 - 長野県、信濃町、公益社団法人国土緑化推進機構、モンスターエナジージャパン合同会社

■ 千葉県九十九里浜清掃大作戦



- 活動期間 2019年8月18日～22日
- 活動場所 千葉県九十九里浜
- 参加人数 239名
- 活動内容 九十九里浜全域の清掃活動・新人現場研修
- 成果・課題等
 - 【成果】
 - ・ゴミ袋回収総量 1,034袋・テントの立て方、たたみ方、土嚢袋の作り方、ブルーシートのたたみ方等、現場活動時に必要な知識の習得
 - 【課題】
 - ・夏の海岸清掃ということで、体力的にきついというイメージから、近年参加者が減少している
- 協力・協賛等
 - 協力：共同ネットワーク株式会社、社会福祉法人一宮学園、旭市、いすみ市、一宮町、大網白里市、九十九里町、山武市、白子町、匝瑳市、長生村、横芝光町 協賛：モンスターエナジージャパン合同会社、株式会社ナリスアップコスメティックス、ダイヤ製薬株式会社
 - 掲載：広報おおあみしらさと、広報よこしばひかり、広報さんむ



・・・地域活性化・・・

■長野県飯山市活性化活動（雪まつり・かまくら祭り）



■活動期間 2020年2月6日～2月10日（5日間）

■参加人数 5日 計143名

■活動内容 雪まつり・かまくら祭りの運営補助、企画提案・実施、地元の方々を招待した交流会の実施

■成果・課題等

【成果】

・祭りの運営に関わり始めて5年を迎え、地元の方々との関係を広げつつ、地盤も固まってきた

・祭りの会場の変更、積雪量の減少などの状況に対しても臨機応変に対応しお祭りの成功させることができた

・地元住民の皆様にご協力いただき、地元の郷土料理を販売し売ることができた

【課題】

・関係作りのフェーズから次のステージに移行するため、“地域の活性化”という目的に貢献するための新たな関わりや施策が必要

■協力・協賛等

【協力】

イビューサバ一と飯山みゆき野、いいやま雪まつり実行委員会、かまくら祭り実行委員会、かまくら応援隊、外様地区活性化センター、飯山高校ダンスチーム「NOVA」、信州大学よさこいチーム「和っしょい」、飯山市役所、飯山商工会議所

【協賛】

・モンスターエナジージャパン合同会社・株式会社ビューティフルエンジェル

■岡山県備前市活性化活動



■活動期間 2019年8月19日～21日

■活動場所 岡山県備前市伊部、備前市伊里地区、備前市吉永町

■参加人数 76名

■活動内容 備前焼体験、地域の整備活動、ワークショップ、交流会

■成果・課題等

備前市の魅力の体験と課題を把握し、顔の見える関係が作れた。

■協力・協賛等

備前市、備前観光協会、八塔寺ふるさと村運営協議会、備前陶芸センター、備前市埋蔵文化管理センター、岡山県青少年教育センター閑谷学校、備前焼陶友会、伊部地区の備前焼作家のみなさま、森敏彰様、里海里山ブランド推進協議会 with ICT

■岡山県日生諸島活性化活動



■活動期間 2019年8月29日～9月2日

■活動場所 岡山県備前市日生町

■参加人数 84名

■活動内容 かしらじまマルシェの運営、交流会

■成果・課題等

初めての試みとしてかしらじまマルシェを運営し、大盛況であった。

■協力・協賛等

備前市、備前観光協会、日生町漁業協同組合、里海里山ブランド推進協議会 with ICT

■新潟県長岡市「長岡まつり」活性化活動



■活動期間 2019年8月1日～4日

■活動場所 新潟県長岡市

■参加人数 154名

■活動内容 長岡まつり運営補助

■成果・課題等

・市内学生との協働、過去最大の規模で交流会・意見交換会の実施

・メディア掲載：新潟日報

■協力・協賛等

NPO 法人ネットワークフェニックス、一般社団法人長岡花火財団、長岡青年会議所

■新潟県長岡市「とちお祭り」活性化活動



■活動期間 2019年8月23日～26日

■活動場所 新潟県長岡市

■参加人数 84名

■活動内容 とちお祭りへの参加、運営補助

■成果・課題等

独自の企画ブースへの来場者数112人

■協力・協賛等

栃尾観光協会、栃尾甚句保存会、栃尾地区新町・原町・天下島のみなさま

■新潟県長岡市「栃尾裸押し合い祭り」活性化活動



- 活動期間 2020年2月7日～9日
- 活動場所 新潟県長岡市
- 参加人数 47名
- 活動内容 裸押し合い祭りへの参加、運営補助
- 成果・課題等
祭りへの参加を通して盛り上げることができた
- 協力・協賛等
栃尾観光協会、栃尾地区栃堀のみなさま

■新潟県十日町市「十日町雪まつり」活性化活動



- 活動期間 2020年2月14日～17日
- 活動場所 新潟県十日町市
- 参加人数 15名
- 活動内容 十日町雪まつりへの参加、運営補助
- 成果・課題等
十日町産の食材を使った露店販売を行い、来場してくれた方に十日町の魅力を伝えることができた。
- 協力・協賛等
十日町青年会議所

■東京都利島活性化活動



- 活動期間 2019年8月26日～31日
- 活動場所 東京都利島村
- 参加人数 44名
- 活動内容 椿農家支援の椿畑下草刈り
- 成果・課題等
椿農家13軒、17箇所の椿畑下草刈り
- 協力・協賛等
株式会社TOSHIMA、東京島嶼農業協同組合利島店、利島村

■新潟県関川村活性化活動



- 活動期間 2019年8月23日～26日、2020年2月8日～10日、2月15日～17日
- 活動場所 新潟県関川村
- 参加人数 延べ272名
- 活動内容
・祭り、イベントの運営補助 ・地域活性化に関わる事業アイデアの提供
・村内ボランティア・交流会
- 成果・課題等
・廃校の利活用に向けて事業計画を進めている地域と協働した活動をすることができた
・新型コロナウイルス感染拡大に関わり進行が難しくはあるが、今後着実に提案の実現、もしくは、より関川村の活性化につながる事業実現に向けて現地と協働していく必要がある
- 協力・協賛等
おりのの会、関川村IVUSA後援会、関川村各集落のみなさま、社会福祉法人関川村社会福祉協議会、関川村、ダイヤ製薬株式会社、株式会社ナリス化粧品、谷人倶楽部、タランベクラブ、福徳産業株式会社、モンスターエナジージャパン合同会社、やるでは会

■静岡県西伊豆町活性化活動



- 活動期間 2019年5月10日～12日、6月14日～16日、7月12日～15日、8月14日～17日、11月8日～10日、2020年1月8日～9日、2月21～25日
- 活動場所 静岡県賀茂郡西伊豆町
- 参加人数 延べ252名
- 活動内容
耕作放棄地の再生、クールベジタブルの栽培、各地区祭りの運営補助、自主イベントの実施
- 成果・課題等
ヤーコンチップス、麺の加工製品作成、現地飲食店とのコラボレーション
- 協力・協賛等
西伊豆町、田子港祭り実行委員会、安良里夏祭り実行委員会、安良里舞鼓会、伊豆半島ジオパーク推進協議会、西伊豆町商工会議所青年部、藤井わさび園、クリスの駄菓子屋、佐野製麺株式会社、サカヤ菓子店、イズシカ屋、モンスターエナジージャパン合同会社、株式会社ナリス化粧品、ダイヤ製薬株式会社、セルフ箸蔵

■三重県熊野市活性化活動



■活動期間 2019年7月13日～14日、8月3日～5日、8月23日～27日、10月5日～6日、11月23日～24日、2020年2月22日～25日

■活動場所 三重県熊野市

■参加人数 延べ202名

■活動内容

- ・花火大会の運営補助・地域資源を活用した滞在促進プランの提案と実現のための協議
- ・商店街イベントのプロデュースアイデア提案
- ・廃棄品の利活用アイデアの提案と協議
- ・丸山千枚田での農作業のお手伝い

■成果・課題等

- ・花火大会が大幅に順延となった中でも最大限の支援をすることができた
- ・花火大会ではごみ問題に対し、環境啓発となる企画(スタンプラリー)を実施
- ・新たな事業アイデア提案をすることができた。新型コロナウイルス感染拡大に関わり進行が難しくはあるが、今後着実に提案の実現、もしくは、より熊野市の活性化につながる事業実現に向けて現地と協働していく必要がある

■協力・協賛等

熊野市観光協会、熊野市、熊野商工会議所、有限会社もんいままじゅ、株式会社金山パイロットファーム、飛鳥たかな生産組合、天理教南紀大教会、熊野市記念通り商店街振興組合、マルホ水産、ケーキハウススギヤ、Bis Morgen Bakery、熊野の社のパウム店、片岡シェーク、お綱茶屋、三重交通紀南営業所、ひもの屋しあわせうお、神川地区のみなさま、丸山千枚田保存会のみなさま、丸山地区のみなさま、他熊野市のみなさま、糸川屋製菓株式会社、モンスターエナジージャパン合同会社



・・・災害救援・防災・・・

■愛媛県宇和島市復旧支援活動



■活動期間 8月9日～12日

■活動場所 愛媛県宇和島市

■参加人数 17名

■活動内容 ・平成30年7月豪雨(西日本豪雨)により土砂災害などの被害を受けたミカン畑などの整備 ・地元のミカン農家さんなどとの交流会

■成果・課題等 ・土砂の除去作業1件 ・土嚢積み4件 ・畑などに流入した石やごみの除去2件

■協力・協賛等 株式会社玉津柑橋倶楽部、株式会社愛工房、宇和島市吉田町の農家の皆様、愛媛県農業協同組合、宇和島市、宮本篤様、モンスターエナジージャパン合同会社

■東日本大震災復興支援活動



■活動期間 2019年8月22日～27日

■活動場所 宮城県亶理郡山元町

■参加人数 136名

■活動内容

- ・「てらまるしえ夏ふえす」運営のお手伝い
- ・沿岸防砂林として植樹している松林での下草除去作業
- ・地区の道普請支援としての側溝土砂だし作業
- ・震災遺構見学含むフィールドワーク

■成果・課題等

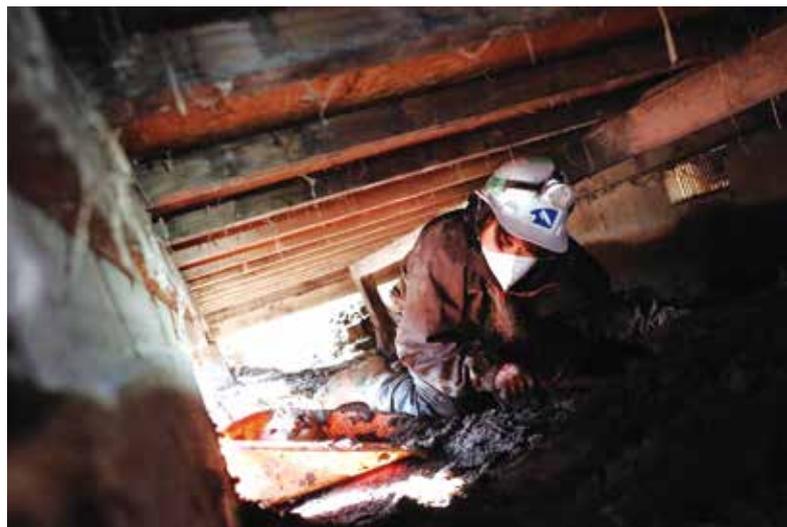
【成果】 ・過去2年、普門寺境内で行っていたお祭りを、震災後初めて海岸沿いの「花釜避難が丘公園」で開催し、沿岸6地区の住民に参加を募ることができた

【課題】

- ・地域密着である反面、県外からのお祭り来場者を増やすこと

■協力・協賛等

モンスターエナジージャパン合同会社、株式会社ナリスアップコスメティックス、ダイヤ製菓株式会社



■令和元年 8 月九州北部豪雨災害救援活動



- 活動期間 9月2～4日、9月10日～14日
- 活動場所 佐賀県大町町・多久市
- 参加人数 延べ52名
- 活動内容
 - ・被災家屋内外に流れ込んだ土砂の除去
 - ・浸水し廃棄する家具等の搬出
 - ・屋内の清掃（油流出事故に伴う家屋等に染み込んだ油の除去を含む）
 - ・食器などの洗浄
 - ・家財などの分別、消毒
- 成果・課題等
 - ・8件のニーズに対応し、5件が完了
 - ・土砂やヘドロ等は比較的少なかったものの、浸水していた期間が長く、また鉄工所からの油の流出というこれまでの水害で前例がない状況
 - ・この前例のない状況に対し、油の除去方法について連携団体とも情報交換を行うとともに、学生自ら作業方法を改善し、家屋等に染み込んだ油をある程度除去することができた
 - ・ほとんど報道されず、地元の人でも把握していなかった、多久市の山間部で土砂災害にあった住宅でも活動させていただき、重機ボランティアと連携し、ニーズを完遂することができた。
- 協力・協賛等

大町町災害ボランティアセンター、一般社団法人 OPEN JAPAN、キーン・ジャパン合同会社、共同ネットワーク株式会社、災害 NGO 結、災害 NPO 旅商人、佐賀県立黒髪少年自然の家、公益財団法人車両競技公益資金記念財団、西菱電機株式会社、DRT JAPAN、DEF TOKYO

■令和元年台風 15 号（房総半島台風）災害救援活動



- 活動期間 9月15日、16日、9月21～23日、9月28、29日、10月5日、10月8～10日、10月19日、20日
- 活動場所 千葉県館山市・鋸南町、神奈川県横浜市
- 参加人数 延べ494人
- 活動内容
 - ・被害状況やニーズ調査のためのヒアリング
 - ・被害に遭った家具等の搬出
 - ・食器などの洗浄
 - ・家財などの分別
 - ・家屋の消毒
 - ・ボランティアセンター運営支援
- 成果・課題等
 - ・68件のニーズを完了。
 - ・台風の影響で屋根瓦が飛んだことによる浸水被害を受けた建物が多く、また被害範囲も広くボランティアセンターでも初期の段階では被害状況の把握ができていない状態だった
 - ・これに対し、ボランティアセンターと協働し被害地域へのローラー作戦でのヒアリング調査を行い、被害状況の把握及び被害があったお宅への復旧支援活動を行った
 - ・鋸南町ではボランティアセンターの運営人員が不足しており、週末の一般ボランティアの受け入れをスムーズにできるよう、受付業務や駐車場で誘導などボランティアセンターが効率的に業務ができるような支援も行った
- 協力・協賛等

株式会社オンザウェイ、風組関東、鋸南町立鋸南中学校、鋸南町災害ボランティアセンター、鋸南町本郷区、公益財団法人車両競技公益資金記念財団、西菱電機株式会社、せたがや防災 NPO アクション、館山市災害ボランティアセンター、ファミリーマート 鋸南電島店、NGO 災害救援チーム フェニックス救援隊



■令和元年台風 19 号 (東日本台風) 災害救援活動



■活動期間

10月19日、20日、10月23日～11月3日、11月9日、10日、11月16日、22日、23日、11月30日～12月1日、12月9日～12月13日、12月21日～22日

■活動場所 長野県飯山市・長野市、東京都世田谷区・八王子市、群馬県富岡市・吉井町、埼玉県川越市、宮城県丸森町

■参加人数 延べ450名

■活動内容

【長野県長野市、飯山市】

・浸水した家具・畳等の搬出 ・家財などの分別 ・災害廃棄物の搬出・運搬
・流入した土砂のかき出し ・床下の泥出しや乾燥のための床上げ、壁剥がし、消毒

【東京都世田谷区】

・被害状況やニーズのヒアリング調査 (約400件) ・浸水した家具・畳等の搬出
・家財などの分別 ・流入した土砂のかき出し
・床下の泥出しや乾燥のための床上げ、壁剥がし、消毒

【東京都八王子市、群馬県高崎市・富岡市、埼玉県川越市、宮城県丸森町】

・浸水した家具・畳等の搬出 ・家財などの分別 ・流入した土砂のかき出し
・床下の泥出しや乾燥のための床上げ、壁剥がし、消毒

■活動成果

【長野県長野市、飯山市】

・作業件数41件
・長野県津野地区は千曲川の決壊箇所近くに多くの土砂が流れ込んだ地区で、道路にも土砂が堆積し車両の通行が困難で復旧が遅れた地区だった
・津野地区はほぼ全てのお宅が被災している状況で、特定のお宅のみ復旧が速く進むと他の住民から復旧度合いのばらつきによるストレスが出てくることも考えられたため、地区全体で普及度合いが均等になるように作業を行った
・災害ごみや瓦礫を行政の定めた集積場に運ぶ車両が不足していたこと、昼間は住民の方が片付けに来る為車両が多く、日中は瓦礫の運び出しが困難なため、夜間に瓦礫の運び出しを行い日中の作業の効率化を行った

【東京都世田谷区】

・作業件数25件。
・東京都世田谷区の被害状況として、多摩川が越水した箇所の近くのお宅は被害が出ているが、駅前には特に被害が出ていないといった局地的な被害箇所が複数点在している状況だった
・外観からは被害が見とれないが、半地下・地下構造のように内部には被害が出ているお宅もあり、被害状況の割り出しのため災害ボランティアセンターと協力をしヒアリング調査を行った

【東京都八王子市】

・作業件数2件
・当協会の学生支部が東京都八王子市にあり、所属している学生たちで社会福祉協議会との協力のもと活動した

【群馬県高崎市・富岡市】

・作業件数3件
・当協会の学生支部が群馬県高崎市にあり、所属している学生たちで社会福祉協議会との協力のもと活動を行った

【埼玉県川越市】

・作業件数3件
・当協会の学生支部が埼玉県川越市にあり、所属している学生たちで社会福祉協議会との協力のもと活動した

【宮城県丸森町】

・作業件数21件。
・宮城県伊具郡丸森町は震災当初から多くの被害があった地域だったが、東北地方という地理的状況から西日本からのボランティア支援の数が少なく、復旧が遅れた地域だった
・震災から1か月が経っていたが床下の土砂かきも終えていない住宅も多く、壁剥がし、床上げ、床下に溜った土砂かきなど、多くの支援が必要となった

■協力・協賛等

株式会社オンザウェイ、キーン・ジャパン合同会社、公益財団法人車両競技公益資金記念財団、西菱電機株式会社、風組、災害NGO結、DRT JAPAN、DEF TOKYO、長野市石川地区、長野市災害ボランティアセンター、ほっともっと長野大豆島店、飯山市災害ボランティアセンター、飯山市瀬木地区、飯山市大川地区、江沢岸生様、なかみち屋、世田谷区危機管理室災害対策課、世田谷区社会福祉協議会、世田谷災害ボランティアセンター、一般社団法人日本レスキューボランティアセンター、TEAM ACE、お寺災害ボランティアセンター、一般社団法人OPEN JAPAN、山元町花釜地区、普門寺、一般社団法人口ハス南阿蘇たすけあい

・ ・ 子どもの教育支援 ・ ・

■児童養護施設の子どもたちとの交流キャンプ



■活動期間

2019年6月14日～16日、6月28日～30日、11月8日～10日

■活動場所

新潟県長岡市

■参加人数

延べ96名

■活動内容

児童養護施設の子どもたちとの交流

■成果・課題等

活動を通して子どもたちの自己肯定感を高めることができた

■協力・協賛等

児童養護施設双葉寮、社会福祉法人新潟リタス会聖母愛児園

■三重県熊野市減災チャレンジキャンプ



■活動期間

2019年8月9日～11日

■活動場所

三重県熊野市育生町

■参加人数

学生26名、小学生18名

■活動内容

・活動地域の子どもたちと学生とで熊野市のまちあるきやワークショップ、火起こし等キャンプ体験などを通して防災・減災について学ぶ

・地元の子どもたちと学生とが地域の魅力に関して意見交換をすることで子どもたちの郷土愛を深める

■成果・課題等

・2回目の実施となり、前年度とはまた違った形で実施

・前年度の反省を活かし、良いイベントとすることができた

・実験的实施として実施しているため、今後どのようにして、より良い形で他地域にも拡大していくかが課題

■協力・協賛等

NPO法人あそぼらいつ、株式会社イナバ、熊野市、こだま食品株式会社、有限会社近藤衛司

■生活困窮世帯の子どもの支援活動



■活動期間

通年

■活動場所

京都府京都市醍醐地区、京田辺市、大阪府泉大津市、滋賀県大津市

■参加人数

延べ 598 名の学生が参加

■活動内容

- ・子どもたちへの無料塾の開設と支援実施
- ・子どもたちの第三の居場所の創出

■成果・課題等

- ・新たに泉大津市での居場所支援事業を開始
- ・2020 年には泉大津市での学習支援事業も開始する
- ・各自治体が対象とする子どもたちの特徴を踏まえ、学生だからこそできる子どもたちへの最大限の支援を引き続き試行錯誤しながら実施していく

■協力・協賛等

京都市、京田辺市、泉大津市、大津市

・・・ その他の事業 ・・・

■活動報告会



■活動期間

2019 年 5 月 25 日（西日本）、6 月 2 日（東日本）

■活動場所

東京都世田谷区（世田谷区民会館）
大阪府高槻市（高槻現代劇場）

■参加人数

1,462 名

■活動内容

2018 年度に当協会が実施した事業の活動報告及び、災害シミュレーション劇

■成果・課題等

新入生・会員外で約 200 名の参加、対外への発信

■協力・協賛等

特になし

■職コン 2019



■活動期間 2019 年 11 月 11 日、30 日、12 月 1 日、15 日

■活動場所 東京都、大阪府、京都府

■参加人数 延べ 158 名

■活動内容 21 卒の学生による就職セミナー・マッチングイベント

■成果・課題等

東西出展 20 社達成、参加者のリクルート

■出展企業：株式会社キッツ、西菱電機株式会社、大和ライフネクスト株式会社、TS グループ、サラヤ株式会社、東京サラヤ株式会社、日鉄エンジニアリング株式会社、バイン株式会社、ヤマトグループ、ロングライフホールディング株式会社、YKK グループ、近畿環境保全株式会社、フロントマネジメント株式会社、ミスミグループ



■ 沖縄県戦没者遺骨収集活動



- 活動期間
2019年5月3日～5月7日、9月12日～17日、2020年2月19日～25日
- 活動場所 沖縄県浦添市
- 参加人数 延べ146名
- 活動内容 戦没者の遺骨収集、慰霊式典
- 成果・課題等
戦没者（見込み）御遺骨0柱、遺留品8点（5月）
戦没者（見込み）御遺骨2柱、遺留品17点（9月）
戦没者（見込み）御遺骨1柱、遺留品23点（2月）
- 協力・協賛等
沖縄県平和祈念財団遺骨収集情報センター、沖縄県平和祈念資料館友の会、株式会社守礼ホーム

■ 遺骨収集事業



- 活動期間 2019年7月22日～8月7日、7月23日～8月7日、8月19日～9月4日、9月17日～9月28日、9月24日～10月9日、11月11日～11月22日、11月26日～12月11日、2020年1月29日～2月14日
- 活動場所 東京都小笠原村硫黄島、ロシア連邦ハバロフスク地方、サイパン島
- 参加人数 14人
- 活動内容
第二次世界大戦の戦没者・戦時抑留中志望者の遺骨遺留品の回収と返還
- カウンターパート
一般社団法人日本戦没者遺骨収集推進協会

■ 社会課題を気軽に知り、感じ、考えよう！～ Social Salon in IVUSA ～



- 活動期間、テーマ、活動場所
2019年4月14日「LGBT」（東京）
2019年5月26日「児童養護」（東京）
2019年6月23日「障害」（東京）
2019年7月13日「地域共生社会」（東京）
2019年9月29日「LGBT」（京都）
2019年10月19日「出所者の支援と社会の現状」（東京）
2019年11月20日「LGBT」（群馬）
2019年12月14日「気候変動ってなんだ？」（東京）
2020年1月26日「障害ってなんだ？」（大阪）
2020年2月16日「中東で何が起きてる！？」（東京）
- 参加人数
延べ167名
- 活動内容
様々な社会問題を“自分ごと”にすることを旨とし、当事者や支援者など様々な立場のゲストスピーカーのお話と参加者全員での対話を行う。
- 成果・課題等
・学生、社会人など多様な参加者間での対話を通じ、新たな視点や視野を手に入れられたとの感想が多くみられた
・今後も、ボランティア活動や日々の生活での行動に繋がるよう工夫しながら、引き続き様々なテーマで継続していく

■ 世田谷区市民活動支援コーナー運営



- 活動期間 通年
- 活動場所 世田谷区キャロットタワー3階
- 運営スタッフ数 16名
- 活動内容
スペースの管理運営、市民活動相談、利用団体PRイベント「パオフェスタ」開催
- 成果・課題等
令和元年度開館295日、1,740件、11,993人利用
- 委託元
公益財団法人せたがや文化財団



研修

■初夏トレ・春合宿



- 活動期間 2019年6月8日、9日、15日、16日、29日、30日
- 活動場所 東京都、神奈川県、京都府、滋賀県、大阪府内の大学及び施設
- 参加人数 1,823名
- 成果・課題等 東西全10日程で新入生会員の約80%に対し研修を実施

■役員合宿



- 活動期間 2019年12月25日～27日
- 活動場所 旭高原少年自然の家
- 参加人数 181名
- 活動内容 次年度学生役員に対する各種研修を実施
学生幹部役員選挙を実施し次年度幹部を決定
- 成果・課題等 チームビルディング、組織マネジメント等、次年度学生役員に必要なスキルに関する研修を実施し、次年度スタートアップに必要な準備をすることができた。

■キックオフ合宿



- 活動期間 2020年2月8日～9日、2月11日～12日
- 活動場所 東京都内、京都府内の大学
- 参加人数 363名
- 活動内容 次年度組織始動にあたって、支部マネジメント層にとって必要な研修を実施
- 成果・課題等 本年度のふりかえりとともに、次年度に向けた方針検討などを通して、次年度始動に向けた準備をすることができた。

■時事問題勉強会



- 活動期間 通年
- 活動場所 各大学教室・会議室等
- 参加人数 1,679名
- 活動内容 世界と日本が抱えている課題・リスク等について包括的に学ぶとともに、各分野の事業がどのように相互に関連しているかについて理解するための講習

■危機対応講習



- 活動期間 通年
- 活動場所 各大学教室・会議室等
- 参加人数 2,269名
- 活動内容 活動時に必要となる応急救命技能を学ぶとともに、IVUSAの考える危機対応の考え方を知り、具体的な身の回りの危機や災害に対する知識と対応方法を身に付けるための講習

■コミュニケーション研修



- 活動期間 通年
- 活動場所 各大学教室・会議室等
- 参加人数 2,889名
- 活動内容 活動をするにあたって必要となるコミュニケーション、マネジメント能力を身に付けるための講習

協賛一覧

夏プロジェクト

企業名	商品名
ダイヤ製菓株式会社	冷却シート
株式会社ダンロップホームプロダクツ	ゴム長手袋
モンスターエナジージャパン	モンスターエナジーキューバリブレ
弘進ゴム株式会社	胴長
	ゴム長手袋Mサイズ
	ゴム長手袋Lサイズ
株式会社オーシャンライフ	ライフジャケット
株式会社ナリスアップコスメティックス	日焼け止め
株式会社ナリスアップコスメティックス	ぐーぴたっ
株式会社シバタ	ブルーシート3.6m×5.4m
	コンテナボックス
ショーワグローブ株式会社	ゴム長手袋
福德産業株式会社	女性用軍手・男性用軍手
こだま食品株式会社	飲むゆず
株式会社パールライス滋賀	みずかがみ(米)
合同会社茶油屋農場	明治150年玄米入りほうじ茶
共同ネットワーク株式会社	非常用マグネシウム空気電池
	水
	経口補水塩分タブレットO.R.S
西菱電機株式会社	ハンディ型業務用IP無線機
株式会社オンザウェイ	業務用無線機

春プロジェクト

企業名	商品名
ダイヤ製菓株式会社	冷却シート子ども用
シオノギヘルスケア株式会社	除菌シート
モンスターエナジージャパン合同会社	モンスターエナジーキューバリブレ
社会福祉法人 池田博愛会 障害福祉サービス事業所 セルプ箸蔵	割り箸(500本)
株式会社ビューティフルエンジェル	ホットアイマスク
株式会社トーヨー	徳用おりがみ15.0(300枚入り)
セツカートン株式会社	高強度のダンボール
中田食品株式会社	田舎漬け梅干し
ショーワグローブ株式会社	ゴム長手袋
株式会社岡田金属工業所	竹用手鋸
カヴァーワーク株式会社	スノーグローブ
株式会社ビジョン	グローバルWi-Fi(2台)
西菱電機株式会社	ハンディ型業務用IP無線機
株式会社オンザウェイ	業務用無線機

メディア掲載

No	活動名	掲載メディア	掲載日
1	新潟県長岡市「栃尾まつり」活性化活動	栃尾タイムス	2019.7.15
2	新潟県長岡市「長岡まつり」活性化活動	新潟日報	2019.8.8
3	長野県北信地域森林整備活動	長野市民新聞	2019.8.10
4	長崎県対馬市海岸清掃活動	読売新聞	2019.8.22
5	三重県熊野市熊野大花火大会活性化活動	熊野新聞	2019.8.28
6	新潟県関川村大したもん蛇まつり活性化活動	サンデーいわふね	2019.9.1
7	山形県日本海沿岸清掃活動	荘内日報	2019.9.3
8	新潟県長岡市「栃尾まつり」活性化活動	栃尾タイムス	2019.9.5
9	滋賀県琵琶湖外来水生植物除去大作戦	関西テレビ	2019.9.7
10	滋賀県琵琶湖外来水生植物除去大作戦	中日新聞	2019.9.8
11	三重県熊野市減災チャレンジキャンプ	広報くまの	2019.9.10
12	新潟県佐渡市日本海沿岸清掃	ニュースアイランド	2019.9.13
13	令和元年8月九州北部豪雨災害救援活動	佐賀新聞	2019.9.14
14	長崎県対馬市海岸清掃活動	長崎新聞	2019.9.23
15	長崎県対馬市海岸清掃活動	毎日新聞	2019.9.25
16	新潟県佐渡市海岸清掃活動	読売新聞	2019.9.25
17	新潟県佐渡市海岸清掃活動	新潟日報	2019.10.1
18	令和元年台風19号災害救援活動	信濃毎日新聞	2019.10.20
19	危機対応研究所	毎日新聞	2019.10.25
20	沖縄県石垣島海洋漂着ゴミ水際掃討大作戦	八重山毎日新聞	2020.2.14
21	長野県飯山市活性化活動	北信ローカル	2020.2.14
22	関川村大石どもんこまつり活性化活動	サンデーいわふね	2020.2.16
23	沖縄県石垣島海洋漂着ゴミ水際掃討大作戦	八重山毎日新聞	2020.2.18
24	沖縄県戦没者遺骨収集活動	yahoo!ニュース	2020.2.21
25	沖縄県石垣島海洋漂着ゴミ水際掃討大作戦	おはよう！島テレビ	2020.3.28

詳しくは https://blog.canpan.info/ivusa/category_5/1 をご覧ください

法人会員一覧

青山国際教育学院	太平ビルサービス株式会社
一般社団法人日本イベント協会	三菱電機株式会社

収支報告書

書式第13号(法第28条関係)

令和元年度 活動計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		
入会金	6,318,000	
学生会員受取会費	34,291,284	
その他の会員受取会費	320,000	40,929,284
2 受取寄附金		
受取寄附金	1,936,221	
受取寄附金(募金)	986,835	2,923,056
3 受取助成金等		
受取助成金	14,373,287	
受取補助金(業務委託収入)	14,540,315	28,913,602
4 事業収益		
国内及び国外における、国際協力活動、環境保護活動、地域活性化活動、災害救援活動、子どもの教育支援活動等の社会貢献事業収益	122,043,985	122,043,985
5 その他収益		
受取利息	792	
受取配当金	415,423	
雑収入	12,906	429,121
経常収益計		195,239,048
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費		
給料手当	53,869,263	
法定福利費	7,393,529	
人件費計	61,262,792	
(2)その他経費		
その他事業費	111,756,260	
期首商品棚卸高	3,159,470	
期末商品棚卸高	▲ 3,517,329	
その他経費計	111,398,401	
事業費計		172,661,193
2 管理費		
(1)人件費		
給料手当	1,008,000	
法定福利費	218,005	
福利厚生費	423,214	
人件費計	1,649,219	
(2)その他経費		
貸借費	9,018,744	
旅費交通費	2,352,835	
車両費	1,872,910	
通信費	233,754	
消耗品費	952,865	
諸会費	210,000	
租税公課	4,500,534	
支払手数料	361,315	
荷造り運搬費	161,773	
会議費	585,969	
慶弔費	2,840	
水道光熱費	977,223	
減価償却費	277,918	
図書情報費	83,461	
雑費	186,405	
業務委託費	940,400	
リース費	1,626,354	
ネット関連費	1,140,544	
ゴミ処理費	254,166	
その他経費計	25,740,010	
管理費計		27,389,229
経常費用計		200,050,422
当期経常増減額		▲ 4,811,374
III 経常外収益		
経常外収益計		
IV 経常外費用		
為替差損	139,295	
経常外費用計		139,295
税引前当期正味財産増減額		▲ 4,950,669
法人税、住民税及び事業税		150,000
当期正味財産増減額		▲ 5,100,669
前期繰越正味財産額		83,929,210
次期繰越正味財産額		78,828,541

組織図

学生代表



近畿大学
升谷維吹

総務室



近畿大学
永岡聖華



國學院大学
佐々木穂高

マーケティング室



日本大学
小島萌美



近畿大学
関勇哉

西日本運営本部



京都外国語大学
林菜々絵



関西大学
國重舞



同志社女子大学
山田雛



近畿大学
滝沢航平

東日本運営本部



法政大学
三浦慎爾



法政大学
高橋龍介



法政大学
浜野涼



昭和女子大学
芦田花織

事業本部



近畿大学
藏堀克人



立命館大学
有島実紗子



二階堂らな



2020年9月

発行・編集：特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 1-34-4 ザ・アゼリアハウス B-102

Tel/Fax 03-6751-2683 E-mail ivusa-office@ivusa.com